OMM JAPAN イベントディレクターレポート

今年のOMM JAPAN 2018 OKUMIKAWAは1,200人を超える参加者が、OMM JAPAN史上過去最高難度のナビゲーションと事前に噂された奥三河の山々に自身のマウンテンスキルをテストするべく挑みました。
OMM JAPAN が2014に初めて静岡県東伊豆町で開催され今回で5回目となりますが、回を重ねるごとに参加チームのスキルや経験値が確実に向上し、オウンリスクでの判断と行動が求められるこのイベントへの理解が深まっていることを実感します。
同時に参加者がこのイベントに求めるチャレンジの質やレベルも確実に上がっていることを例年以上に強く感じた年となりました。

評価・課題・反省

１．開催地

まずはじめに今回の開催エリア決定にあたっては、昨年の１１月頃までに第一候補地として地元の了解まで頂く段階まで進めていた某エリアが、１２月の時点でコース設定と安全管理上の大きな問題で開催を断念するという深刻な事態からスタートしました。

その時点でほとんどゼロからの開催地選定となりましたが、年明け早々には今回の奥三河での開催構想を作成し１月中にはOMM JAPAN渉外担当の我部が愛知へと足を運び、地元自治体、関係先との交渉の結果、今回のエリアでの開催決定に至りました。
異例中の異例ともいえる今年の開催地決定の経緯でしたが、そこには最初に地元との交渉のテーブルを用意していただいた恩人の協力や、開催まで1年も無いというギリギリのスケジュールにも関わらず受け入れを了承していただいた豊根村、設楽町の役場、地元関係者、関係企業の皆さまのご理解とご厚意など、我々運営チームの努力だけでは決して実現出来なかった事実があります。
まずはこの開催地決定へと至るまでに尽力したOMM JAPAN 渉外担当我部乱と、愛知県、豊根村、設楽町の関係者の皆様に改めて心から感謝したいと思います。
また同時に今回の反省を以降に繰り返さぬように開催地決定におけるプランニングスケジュールついては見直しを行い今後の運営に活かしていきたいと思います。

・今回のOMM JAPAN 2018 OKUMIKAWA は愛知県北東部に位置する「奥三河」と総称される広大な山間部エリアでの開催となりました。この奥三河は日本の本州中部地方では珍しい緩やかな等高のテレインが広がる地域で、OMMのような広大なスケールを必要とするナビゲーションイベントにとっては絶好のロケーションとも言えるエリアでした。
さらに愛知県最高標高を誇る茶臼山を含む、豊根村、設楽町の山域は奥三河地方でもっとも標高が高く、またスタート、フィニッシュ地点となった茶臼山高原は奥三河の広大な山々を一望するにはほとんど唯一とも言えるロケーションでした。また深く山に入り込むとその中には隠されるように点在する美しい湿原帯や沢、突然あらわれる広葉樹林帯はまさに「秘境」という表現がぴったり合うような雰囲気で、当日は多くの参加者が奥三河の広大で奥深い自然を堪能できたのではないかと思います。

今後もOMMの開催地決定においては、「レース」「チャレンジング」そして「エクスペリエンス」これらすべての要素が満たされた場所で開催することに拘りたいと思います。

2. コース

昨年のOMM JAPAN 2017 NOBEYAMA KOGENを終えて、多くの参加者がとくにナビゲーションに対するより高いレベルのチャレンジを求めていることを感じました。
運営チームとしては、それらの思いを今年のコースにぶつけました。（※詳細はコースプランナー小泉のレポートをご覧ください）結果、過去最高難度のコースと事前に噂されたとおり、straightクラスにおいては全クラスで例年よりも低い完走率となり、Scoreクラスでも得点を伸ばせなかったチームが増えました。
それでも１２００名全チームがDAY１、DAY2ともに自身の判断でコースクローズまでに帰還したことは、天候が良かったことに救われた面もありましたが、開催５年目を経て確実に参加者の中でのオウンリスクとセルフマネジメントの精神が根付いてきていることを実感します。

また今回リタイアとなったチームからも不満の声はほとんどなく「来年への課題が見つかった」「自分に足りない部分が分かった」という意見と「面白かった！」「来年もまた必ずチャレンジしたい！」という前向きな意見が多かったことが印象的でした。
運営チームとしては今年の開催エリアとコースプランに対して多くの参加者から一定の評価を頂けたという点で嬉しく思うとともに、結果が振るわなくともその結果を真摯に受け止めて自分自身の課題とする多くの参加者の姿勢から、まさに自身の山岳スキルをテストする場というOMMのコンセプトに対するの理解の深まりを実感することもできました。

これからもOMMのコンセプトの理解を深めてゆくとともに、イベント全体に対する考察を運営が参加者に共有しながらイベントを継続していくことで、今よりもさらにレベルも質も高いチャレンジを提供することができるのではないかと思います。

3. イベントセンター

・昨年はイベントセンターとオーバーナイトキャンプの間に大きな規制区間を設けなくてはならないことになってしまい、コースプランニングに大きな障害をもたらしてしまったことがあり、今年はその点を事前に確認した上で進めました。
また今回はイベントセンターとオーバーナイトキャンプを舗装路で直線的に繋ぐ「茶臼山高原道路」がリタイアを判断したチームにとって安全に帰還できる分かりやすい”エスケイプロード”となりました。当初開催エリアの地形の複雑さ、ナビゲーションのレベルから事前の予測では例年よりもビバーグを選択するチームが増えると予測していましたが、結果は全チームがコースクローズまでにオーバーナイトキャンプに帰還しました。これは明確な”エスケイプロード”の存在が参加者にとってレース中のひっ迫した精神状況でも冷静にエスケイプ（脱出）を判断させる大きな要因のひとつになったと考えます。

・今年のベントセンターはスキー場施設でファシリティが整った良い環境でしたが、観光地である茶臼山高原の紅葉シーズンと重なる時期にあったためイベントでの施設貸し切りが出来ず、施設の一部をレンタルするという形になりました。
そのため施設側とイベント運営側で事前に打合せていた内容に認識のズレが散見し、直前準備の時点で多くのご迷惑を施設側にお掛けすることになりました。結果としては施設側のご厚意によるフレキシブルなご協力によって当日は参加者に対して大きな影響や問題がなくイベント開催が実施できましたが、本来イベント運営側が事前の打合せでもっと丁寧な説明と確認をするべきである点が多く、今年の大きな反省点そして来年以降の運営の大きな課題として上げたいと思います。

また茶臼山高原スキー場スタッフの皆様にはこの場を借りて改めてご迷惑をおかけしてしまったお詫びと、当日はイベント参加者に気持ちよく過ごしてもらいたいという思いで多くのご協力をいただけましたことを心より御礼申し上げます。

このイベントは毎年開催場所が異なるという特質上、受け入れ先の自治体、関係先にとっては他のスポーツイベントのような継続的な経済効果は期待出来ません。そのためまずはなによりも地元のご理解とご厚意があってこそ開催できるイベントです。この大前提を今後も忘れずに、開催をさせていただく地元の皆様への感謝と敬意をもって誠心誠意で運営に取り組むとともに、可能な限りご迷惑をお掛けしないよう運営を磨いていきたいと思います。

・駐車場のレイアウトはイベントセンター施設の設計上の理由でいくつかに分散されていましたがサインの設置、誘導員の配置など基本的には大きな問題もなく誘導できました。
一点、車で来場した際にサインがもっと大きいほうが見やすいという意見がありました。来年以降もよりスムーズな誘導ができるよう取り組みたいと思います。

・今回イベントセンターでの前泊キャンプが不可（イベントセンターが国定公園内であったため）というお知らせが直前となってしまい、多くの参加者にご迷惑をお掛けすることになってしまいました。来年以降はよりこの確認を早めに行いイベントエントリー開始の時点でアナウンスできるように改善します。

4. オーバーナイトキャンプ

・今年のオーバーナイトキャンプはトイレなどのファシリティがもともとある施設内でしたが、周囲一帯が山に囲まれた自然を感じられる特別感のあるロケーションを提供できたと思います。これからもOMM JAPANだからこそ経験できる特別な一晩を出来る限り実現できるようにしていきたいと思います。

・昨年のように完全なワイルドキャンプではなく施設内でのオーバーナイトキャンプだったことで、立ち入り禁止エリアの設定や参加者の動線が予想していたよりも複雑になりました。そのため当日は現場スタッフの判断で立ち入り禁止テープを追加設置したり、テントサイトを大きく枠で囲うなどの措置をとったがそれらが一部過剰だったようにも見受けられました。
これにより参加者にとってキャンプサイトの雰囲気が悪くなってしまった可能性もある。

これら反省点をまた来年の課題として上げてより良いオーバーナイトキャンプを作りたいと思います。

5. マーシャル・スタッフ・ボランティア

今年も多くのスタッフ・ボランティアに運営チームとしてイベントに参加してもらいました。毎回共にイベントの成功を願い使命感をもって運営にあたってくれるすべてのスタッフ・ボランティアにまずは心から感謝いたします。
開催5回目となり継続して参加してくれるボランティアの方々が増えてきたことも非常に嬉しく思うとともに、そのおかげで年々運営がスムーズになっていることも実感します。この運営ボランティアのコミュニティも今後さらに広がっていくように、OMMイベント参加者だけではなく運営に関わるスタッフ、ボランティアも含め関わるすべての人が最高の経験となる場を目指します。

THANK YOU FOR ALL

OMM JAPAN 2018をともに作り上げてくれた仲間に感謝を贈ります。

TEAM OMM JAPAN
Communications Director Jeff Jensen
渉外 我部乱（有限会社エクストレモ）
Event HeadQuarter 細谷かこ
Technical Director 田島利佳（TEAM 阿闍梨）
Course Planner 小泉成行（公益社団法人日本オリエンテーリング協会）
計測・リザルト 大場隆夫・福西佑紀（公益社団法人日本オリエンテーリング協会）
スタート・フィニッシュ 田畑清士(公益社団法人日本オリエンテーリング協会)・中川顕彦
安全管理マネージャー 村越真（NPO 法人 M-nop）、宮内佐季子
スタッフ・ボランティアとして参加してくれた皆様

愛知県豊根村、設楽町・観光課職員の皆様
茶臼山高原スキー場スタッフの皆様
つぐ高原グリーンパーク スタッフの皆様
ふれあいの館 グリーンメッセージ スタッフの皆様
長野県・根羽村　地元関係者の皆様

TEAM OMM UK
OMM Events Director Stuart Hamilton
Race Coordinator Dave Chapman

ALL Competitors
OMM JAPAN 2018に参加してくれたすべてのコンペティターの皆様

ありがとうございました。
OMM JAPAN EventDirector　小峯秀行